President's

Message
No.5

ウィルス駆除と不良債権処理の共通点

～ワームｓｌａｍｍｅｒとの闘い～

2003年1月25日午後2時

2003年1月25日、午後2時からインターネットのトラフィックが急激に上昇しました。今思えば、これがワームslammerが動き出した時でした。

土曜日の午後2時と言えば､通常はトラフィックが多くなる日時ではありません。機器故障とウィルスの両面からのチェックをはじめたところ、どうも新種のウィルスのようだとわかりました。

最初の報道は米軍？

時がたつにつれ、インターネットの速度は遅くなり、メール送受信ができないなどのお客様からのお問い合わせが増えました。私の知る限りでは、ニュースでこのワーム報道をしたのは、在日米軍の放送が最初です。当社の社員の一人がこの放送でワームのことを知り、これがきっかけでワームの正体がつかめました。

ウィルスの被害なし～総務省～

26日のニュースでは総務省は、「被害なし」としているようです。
http://www.sankei.co.jp/news/030126/0126sha063.htm
当社は、HP上でも被害状況を報告しており、また、東大やGMO社も被害を受けています。
http://www.sankei.co.jp/news/030125/0125sha108.htm
この時の総務省のコメントは誤りであったことがわかります。

不良債権処理で、大蔵省が不良債権はないとか、不良債権処理は終わったと言ったことと、似ていると思うのは私だけでしょうか。今回の総務省の対応には疑問を持ちます。同様に大手プロバイダーが被害がないと言っているのは、大手銀行が不良債権はないと言っていたことと同じではないでしょうか。100万人を超える会員がいて一人も感染者がいないということは考えられません。

被害があったのは、対策をしていなかったからか？

先ほどの記事
http://www.sankei.co.jp/news/030126/0126sha063.htm
の中には、セキュリティ会社のコメントとして、対策をしていない所が被害を受けた、という趣旨の発言があります。本当にそうでしょうか。そうだとするなら、インターリンクは対策ができていなかったことになります。

このワームは、IPアドレスの上位24ビットをランダムに選択したあと､残りの8ビットに向けて膨大なパケットを出す、ということが報道されています。
http://www.rbbtoday.com/news/20030129/10339.html
上位24ビットがたまたまインターリンクのIPアドレスと一致すると、インターリンクに向けて膨大なパケットが放出されます。同じように上位24ビットが東大なら、東大も大きな被害を受けます。被害を受けるか、受けないかは上位24ビットがランダムに選択される際、“たまたま”自分のものだったかどうか、ということに過ぎないことがわかります。

感染サーバーの運営者は反省を。

では、感染したサーバーは、対策をしてなかったからでしょうか。これについては、その通りと言わざるを得ません。

昨年7月にMicrosoft社からは修正プログラムが出されており、既に7ヶ月も経過しています。7ヶ月間、サーバープログラムのメンテナンスをしていなかったのなら、これは問題です。

一般のユーザーの方がWindows Updateをするのと同じように、比較的簡単にアップデートできるわけですし、こまめなアップデートは管理者として是非、やっていただきたいことです。

痛みを伴う対策

今回、特に東京エリアのユーザーの方には、通信が切れるなど、大変ご不便をおかけしました。誠に申し訳ございません。

感染者を割り出すため、通信を一時切断しなければなりませんでした。“痛みを伴う”対策でありましたが、結果として、感染者はすべて判明し、全員に対策をしていただき、当社の会員の感染は一人もいなくなりました。

プロバイダーの会員の感染及びウィルス駆除を完了したのは、当社が一番早かったと自負しておりますが、今後は通信を途切れさせることない対応をしていきたいと考えております。